

先輩農業者インタビュー



親元就農

園芸

福井県坂井市

内江 元泰 さん (福井県出身)

茜 さん (東京都出身)

今回は就農4年目、水田転作で白ネギ栽培を行っている内江さんご夫婦に話をお聞きました。

就農のきっかけ

- 幼少期からの農業との関りを教えてください。

(元泰さん)

私は現在就農しているこの地区で生まれ育ちました。ここは兼業農家が多い地区で、私の父親も兼業農家として、職場に勤めながら米を作っていました。その関係で、小さいころから田植えの手伝いなどを行っていました。小さい頃はどちらかというと嫌々手伝っていましたね。

(茜さん)

私は元々、東京生まれの東京育ちで、福井に移住して来ました。福井に来たきっかけは、両親の就農がきっかけなんです。父親の親戚があわら市で水稻栽培をしており、両親が跡を継ぐために7年前に福井に移住することになりました。当初は両親だけが移住するという話だったのですが、6年前に私も移住しました。小さいころから農業との関わりはほとんど無かったのですが、新しいことをしてみたいという思いもあり、両親についてきました。

- 奥様は都会から来られたんですね。最初は環境の違いもあり、大変なことが多かったのではないのでしょうか。

(茜さん)

最初は友達も知り合いもなく、農業も素人だったので何が正解なのかも分からず…すべてが手探り状態でした。最初はお米を作って行こうと思っていたのですが、米の生産だけで食べていくのは大変だと思い、園芸カレッジ(注:福井県が設置した研修施設)で園芸作物の育て方を勉強しようと思いました。園芸カレッジでは夫が一年先輩でした。結果的にですが、彼も私も白ネギ作りを選んだことがきっかけで知り合いました。

- とても素敵なお会いがあったんですね。元泰さんはどのようなきっかけで園芸カレッジに行かれたのでしょうか。

(元泰さん)

大学卒業後は、地元である福井県内で就職しました。大学で教員免許を取得していたので、小中学校で講師などしていました。そんな中で、自営業で商売をしている友人が多く、自分でも何か事業をしたいと考えていました。考えていく中で、自分で採配することができて、基盤があって、将来性がある…と考えた時に、農業に行きつきました。社会的には高齢化が問題と捉えられていますが、自分の中ではビジネスチャンスだと思いました。ただ、父親に農業をやりたいと伝えた時は反対されましたね。父親からは「農家は大変だし、民間企業に勤める方がいいんじゃないか。」と言われました。最終的には、父親の反対を押し切って、自分が強行して就農しました。(笑)

就農にあたって、父親からは知り合いの農家での修行を提案されたのですが、県に相談に行ったときに「水田園芸」という選択肢もあると紹介されて、園芸カレッジのことを知りました。

研修中のことについて

取り組み品目について

- お二人とも最初から白ネギを育てようと思っていたのでしょうか。

(元泰さん)

私の場合は、最初から白ネギをやろうと考えていたわけではないです。水田園芸の場合は、主にブロッコリーやキャベツ、白ネギを育てることが多いのですが、消去法で白ネギが自分に合っていると思いました。白ネギは、収穫のタイミングに余裕があり、収穫後にある程度の期間保存しておいても商品価値がほとんど変わらないんです。そのようなところが自分の性格と合っているなと思って取り組もうと思いました。

- 奥様は白ネギにしようと思ったきっかけなどはあるのでしょうか。

(茜さん)

私も最初から白ネギを育てたかったというよりは、勉強していく中で白ネギにしようと思いました。私も最初は米を作っていたころとあって、知り合いの農家さんで修行できる場所を探していました。うまく見つからなくてあわら市に相談に行ったときに、いろいろと選択肢があることを教えてもらいました。水田で米を作る以外にも、水田園芸という作り方がないと教えてもらい、園芸カレッジに通うことにしました。園芸カレッジで水田園芸について勉強する中で、白ネギを育ててみようと思うようになりました。

研修中のことについて

- 園芸カレッジでの研修は2年間だと思うのですが、研修中に大変だったことなどはありますか。

(元泰さん)

たくさんありますが(笑)、その中でも大変だったのは、技術習得面と経営面ですね。福井県内でも水田園芸に取り組まれている方はまだまだ少ないので、園芸カレッジでの勉強以外にも、自分でもいろいろな人に聞いたりして学ぶ必要がありました。

また、経営面についても、自分でも習得していく必要があると思っています。園芸カレッジではカリキュラムの中で「模擬経営」という形で10a程度のほ場を借りて作物を育てます。その後、自分で経営を始めていくと例えば1haのほ場で生産するようになります。では、単純にすべて10倍で計算すればいいかということ、コスト面でも作業時間面でもそう単純に行くものではないんです。特に最近は肥料や資材のコストが年々上がってきており、そのような要因も計算して経営していく必要があります。そのような視点を持って研修していけるかが大変でもあり、重要なところだと感じています。

(茜さん)

私も同じ意見ですね。栽培技術については、自分で調べたり里親農家さんに聞いたりしながら勉強していました。

- ちなみに、金銭面などで苦労した部分はあるですか。

(元泰さん)

私の場合は、特にありませんでした。国の就農準備資金を受給していましたし、実家暮らしだったのもあり大きく苦労したことはありませんでした。でも、県外出身の人だと少し大変かもしれませんね。家賃や食費などもかかってくると思いますし。ただ、独立後のことを考えるともらった就農準備資金を生活費に充ててなんとか生活できている、という人は独立後に苦労するかもしれませんね。やはり独立後のことを考えると、ある程度の手持ち資金は必要だと思います。

(茜さん)

私も金銭的に苦労したことはなかったですね。研修の一環として生産した作物を販売する機会もあり、金銭的に困ったことはなかったですね。

就農後のこと

- 1年目のことを教えてください。

(元泰さん)

最初の年は、自分と父親、母親の三人で始めました。1年目は1.6haからスタートしたのですが、面積が大きく手が回りませんでした。園芸カレッジでは10aでやっていたのですが、それが1haになると全然違うと感じました。手が回らなくて雑草の処理なんかもできなくて、予定していた量の収穫ができませんでした。また、せっかく収穫できた分についても出荷まで手が回りませんでした。

白ネギの場合は、年間の作業時間の中で3割くらいが栽培期間で、残りの7割が収穫・出荷調製の時間とされています。それくらい出荷作業に時間がかかる作物なんです。出荷作業が始まると、運搬・皮むき・箱詰めなどの作業が全部同じタイミングで一気に来るようになります。一年目は、出荷の作業時間が確保できなくて、品質があまり良くなかったこともあり、売り上げが思うように確保できませんでした。

- 1年目は、作業ペースなどが掴めずみなさん苦労されると聞きます。それでは2年目も同じ規模の経営面積で取り組まれたのでしょうか。

(元泰さん)

2年目は、経営面積が2.6haまで増えました。意図的に面積を増やしたというよりは、地域でブロックローテーション制を採用しており、私の地域では、年間に地区の3割を米以外に転作するようにしています。自分が持っている水田が転作のブロックになったときにその水田でネギの栽培をしているのですが、そのために、次の年にどれだけの経営面積になるかが見えているんです。逆に言うと、「これ以上面積を増やすのは難しい」と思っても、やらざるを得ないということでもあります。そのような関係で2年目は前年よりも面積が増えました。

実は2年目から、将来的なことも含めて当時お付き合いをしていた妻に手伝いに来てもらうようになりました。手伝いに来てもらうようになった2年目は売り上げが爆発的に増えて、一年目の3倍くらいの売り上げになりました。妻も研修を通じて作業に慣れていましたし、単純に人が1人増えたという意味でも作業効率が大きく上がり売り上げが増えました。



- とても理想的な流れですね。では、そのまま3年目も順調にいかれたのでしょうか。

(元泰さん)

3年目は、経営面積としては4.1haまで増えました。ローテーションの関係で本来は、1.1haに減る予定だったのですが、就農計画の関係もあり面積を減らさずにすむ方法を模索していました。そんな時に、たまたま隣の地区で手が回らないからネギの栽培を辞めるところがあり、その農地を引き受けられることになりました。たまたまなのですが、場所に私の出荷調製場が中間にあり、作業がしやすかったのも助かりました。経営面積が大きく増えたので、3年目から通年雇用の従業員を一人増やすことにしました。当然コストは増えましたが、それ以上に売り上げを大きく増やすことができました。またそれ以外にも、出荷調製作業に人手がかかることから、妻の両親にも農作業の空いている時間に手伝ってもらったり、カレッジの同期に手伝ってもらうなどして、毎日5~6人を確保することができて、売り上げを安定させることができました。そのおかげもあり、3年目の売り上げは、2年目の倍程度まで増やすことができました。

ただ、引き受けている隣の地区の面積を今後も引き続き引き受けるかについては悩んでいます。というのも、自分の地区を守っていききたいという気持ちがあるので、今後自分の地区で営農を辞める農家が出てきたときに対応ができるように、余裕を持っておきたいと思っているからです。

また、4年目の今年(令和5年)は、夏の高温や排水対策の不足などから売り上げは今一つなので、来年に向かって頑張っていきたいと思っています。

- 従業員の方を通年雇用されたということですが、白ネギは通年で採れるものなのでしょうか。

(元泰さん)

ネギの性質上、6月は収穫が難しいんですが、それ以外の月はうまく作れば、コンスタントに収穫することができます。6月が難しいのは、ねぎぼうずが関係しているんです。ネギが成長してくるとねぎぼうずができるんですが、ねぎぼうずができてしまうと商品価値がほとんどなくなってしまうんです。ねぎぼうずが成長する原因は寒暖差の変化によるところが大きいので、どのネギ農家も6月ごろが一番難しい時期となっています。



- 奥様も一緒に作業されているとのことですが、大変なことなどはありますか。

(茜さん)

力の差があるなと感じることは多いかもしれません。作業的には、男女関係なく同じ作業をするので、自分の方が力が無いとか、体力面でも差があるなと感じることはあります。それでも、体力面の差をカバーできるように効率化などを考えながら作業をするようにして、負けたくないという気持ちでついて行ってます。

- 奥様も作業は丸一日行われているのでしょうか。

(茜さん)

今は年長(5歳)の子供がいるので、子供優先で作業をしています。毎日16時30分には絶対に終わるように夫が作業の割り振りを行ってってくれています。それ以外にも、子供が熱を出したら急遽休むこともあるので、そのあたりの調整は大変な部分かもしれません。私の場合は幸いにも、それぞれの両親が近くにいますし、夫も育児に協力的なので夫婦で互いにフォローし合いながら作業を行っています。夫婦間の協力もそうですし、ある程度夫婦以外の人の協力もないと、子育てしながらの営農は難しい部分もあるかもしれませんね。

(元泰さん)

地区の人が子育てに協力的なものも助かってますね。飲み会が好きな地区なんですけど、飲み会に子供を連れて行っても可愛がってくれますし、子供が危ないことをしていたら叱ってくれるところも助かってます。

最近の課題や今後の展望について

- 最近の課題などは何かありますでしょうか。

(元泰さん)

課題はいろいろあるんですが、一番の課題は技術面の向上ですね。地域柄、面積の拡大はしやすい環境にあるので、過度な面積拡大を行うよりも、技術を向上させて収量を増やししながら自信をつけていきたいと思っています。地域の農協でもこれからネギに力を入れていきたいという話も出ているんですが、自分自身が技術を高めていかないと市場で相手にされないと思っています。それに関連して、ネギの産地化にも取り組んで県外へ出荷して、ファンを増やしたいと思っています。そのために県外のネギ農家の仲間とも情報交換を行っていて、SNSから繋がったり、同じ機械を使っている人などの共通点から繋がりを作っています。栽培条件が違う人との話を聞くことでヒントがもらえることもありますね。

個人的には「農業をやりたい」というよりも「農業を通じてどうなりたいか」というところに重きをおいています。例えば天気の悪い日に無理に作業をして風邪をひくよりは健康に気を付けたり、子供が休みの日は作業も休みにして家族との時間を作るようにしています。

- 素晴らしいお考えだと感じました。奥様は今後の目標などありますか。

(茜さん)

私もネギの産地化をしていきたいと思っています。そのためにも、栽培技術のマニュアル化もしていきたいと考えています。その他には、地域を担っていく農業者にもなりたいと思っています。目標は、みんなが憧れるような農家になりたいですね。その姿を見て、小さい子が「自分も農業をやりたい」と思ってくれるような農家になりたいと思っています。

就農希望者へのメッセージ

- とても素晴らしいお話を聞かせていただき、ありがとうございました。最後に新規就農者に向けてメッセージをいただけますでしょうか。

(元泰さん)

農業って、思っているほど簡単な仕事じゃないと思っています。ただ、なかなか踏ん切りがつかない人には、思っているほど難しく考えなくていいし、思い切って挑戦してみしてほしいと思っています。

自然に触れたいというだけではやっていけないと思いますし、「農業＝人づきあいがない」ということはないと思います。反面、頭の中で考えて不安に思っている場合は、自分でハードルを上げすぎずに、とりあえずやってみるというのも一つの方法だと思います。

やってみることで見えてくることもあると思うので、ぜひチャレンジしてみしてほしいなと思います。

